

同窓会だより

題字 内藤祐次

令和6年8月30日発行
(2024年)
東京学芸大学 附属
竹早小学校 同窓会
会長 平柳 佳彦
発行責任者 田近 孝之
印刷(株)サンプラネット
No.44



会長ご挨拶

同窓会会長 平柳佳彦
(昭和45年次卒)

会員の皆様には日頃より同窓会の活動にご理解とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。
昨年4月から新役員体制でスタートした同窓会ですが、コロナの影響で開催中止を余儀なくされた「総会・懇親会」を4年振りに開催するなど、概ね順調に滑り出しております。
一方母校におきましては、4月より椿真智子新校長先生が着任されました。椿校長先生からはメッセージを頂いておりますので、2ページの紙面をご覧ください。また退任された鎌田校長先生には、コロナが猛威を振るう中で4年間の厳しい学校運営を担っていただきありがとうございました。その間の一方ならぬご苦労に対しまして、心より御礼を申し上げます。

さて私事の報告で恐縮ですが、つい先日竹早小学校(昭和45年卒)と竹早中学校(昭和48年卒)の小中合同の同期会を久し振りに開催しました。私たちの学年としては小学校は10年振り、中学校に至っては23年振りの開催です。卒業してから50年以上経つわけですが、うれしいうれしいことに同期生の約4分の1に当たる48名の出席が有り、その内小学校卒業生も23名集まりました。50年の時を経て姿形はだいぶ変わって

いきましたが、すぐに昔の関係に戻って、懐かしく楽しい時間を過ごすことが出来ました。私もこれまで幹事をサボっていたわけですが、思い切って開催して良かったなどあらためて感じたところです。
今回私たち昭和45年卒業生はそのほとんどが竹早中学校に進学したため、小中合同の同期会を開くことになりましたが、最近竹早中学校への進学率が下がっているという事を伺っており、多少気がかりに感じていました。これまでも中学から附属高校へ進学する時にハードルが有るために、竹早中への進学をためらう人も居たわけですが、最近はこれまでに以上に中高一貫校の人氣が高くなり、そちらへの進学者が増えているというのが現実の様で大変残念な限りです。これは竹早小の問題と言うよりも学芸大学の附属学校全体の問題として、魅力の在る学校づくりを考えなければならぬと感じるところです。
そして学校の魅力についてですが、その教育内容もさることながら学校の設備の充実も重要な要素です。設備の関係で言うと、今般竹早では小中共用で使っている下校庭(旧小学校の敷地部分)の改修工事が実施されることに

なり、この会報が発行される頃には完成しているはずですが、この下校庭はグランド表面の劣化が進み子供たちの活動にも支障が出たために、その改修はここ数年の懸案事項となっていたようです。
そこで問題となる改修費用の負担についてですが、総工事費約4千万円の1割程度であり、残りは小学校と中学校が折半し、小学校についてはこれまで保護者が積み立てていた施設拡充積立金から支出するという事を伺いました。これまでも国立大学の予算が厳しいという状況は聞いていましたが、子供の安全に係る改修工事についても十分な費用負担をして頂けないのが現状のようで、子供たちを預かる先生方の日頃のご苦労が想像されます。そんな中で今回は小学校から今後の施設整備のための特別寄付の依頼がありましたので、一般会計の中から50万円を寄付するように予算を組ませていただきました。皆さんからお預かりしている同窓会費につきましては、会報の発行や名簿の管理など会員相互の親睦のためにも積極的に母校支援のために活用してまいりたいと考えております。このような状況をご賢察いただき、あらためて同窓会費と活動支援金の納入にご協力をお願い申し上げます。

今年も10月には平成9年卒業の皆さんの担当により「総会・懇親会」が開催されます。ぜひ同期の皆様お誘いの上で、ご出席ください。お待ちしております。
今後とも会員の皆様のご指導とご支援をお願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。



副会長 高島 裕

母校へボールを寄贈して参りました

4月27日に神沼財務部会長と母校行事の「朝の広場」でクラスボールを寄贈して参りました。
「朝の広場」とは全学年の子ども達とその保護者が参加する全校行事です。当日はあいにく小雨の天気でしたが、前年度に離任された鎌田前校長をはじめとする先生方が近況や在任当時の思い出を話されました。
その後、寄贈となり朝礼台の上で2名の代表児童へボールを手渡ししました。
「みんなで楽しく遊びます」「本日はありがとうございました」と元気な声で受け取ってくれました。
このボール寄贈は平成26(2014)年に開始して今回で10回目となります。開始当時の6年生は22歳をむかえ、ボールはのべ2000個以上になります。
母校を訪れるたびに下駄箱の上に置いてあるボールを見ると、「使い込まれたもの」「比較的新しいもの」などがあり、このボールには歴史を繋ぐバトンのような役割を感じます。
これも会員の皆様からのお気持で続けることが出来ております。
今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

